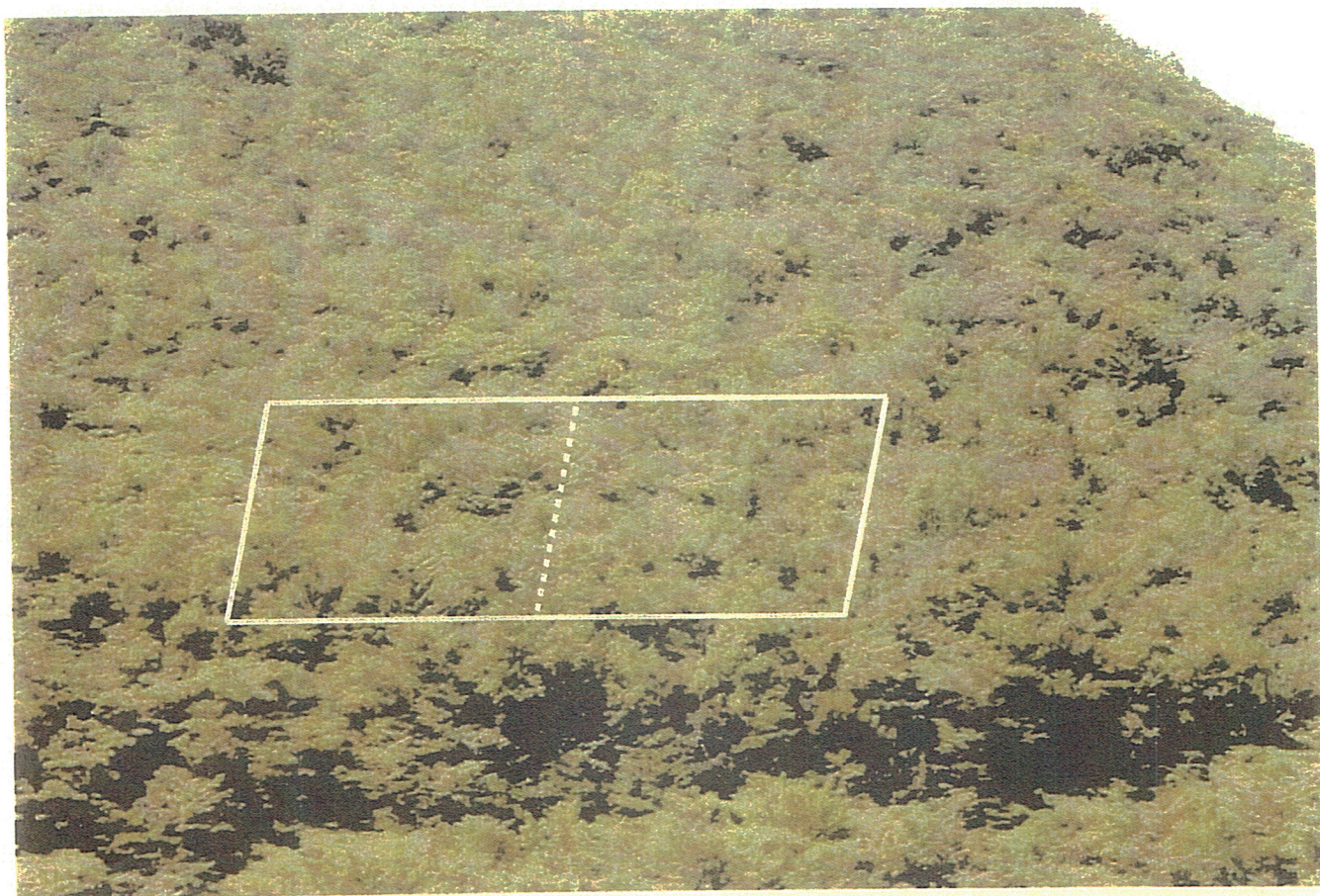


プロット3（30年目）全景と林内の様子



★次お願いします。

3. 設定後の施業過程

(1) 試験区面積 ①各試験区は0.04ha (20m×20m) としました。

(2) 人工補整試験 ①方法 10年生林分は平成6年度に下刈を実施しています。
20年生及び30年生林分については平成6年度に除伐を実施しています。除伐は本数調整伐として雑灌木と被圧木の除去を実施しました。

4. 調査方法

(1) 平成6年度から平成15年度まで(10年間)を試験期間としました。

(2) 林齢別(10、20、30年生)の試験地を人工補整区と放置区に設定し、森林の遷移の過程で残存する有用樹種と非有用樹種を調査しました。

(3) 各試験地毎の有用樹種と非有用樹種の占有率の比較調査を実施しました。

(4) 成長量調査は、各試験区毎の胸高直径4cm上について精密毎木調査を実施、樹高及び胸高直径の比較を行いました。

5. 実行結果は A 植生の状況 B 占有率 C 成長量としました。

A 植生の状況

(1) プロット 1 (10 年生) 表-1

設定後試験区内に発生した有用樹は補整区に 4 樹種、放置区に 3 樹種の発生が見られました。

表-1 植生の状況 (伐採後 10 年目)

分 種別	植 生	
	有 用 樹	非 有 用 樹
補整区 (施業区)	ケヤキ・キハダ・ミズキ・イヌシデ・(4種) タブ・ヤマザクラ・アカガシ・ウラジロガシ (4種)	アオモジ・カラスザンショウ・アカメガンワ・ハイノキ・イヌガヤ・サザンカ・ネズミモチ・ヤブツバキ・ヒサカキ・シキミ・キブシ・シラキ・ヤブムラサキ・コンテリギ・アオキ・(15種)
放置区 (対照区)	ケヤキ・イヌシデ・タブ・アカガシ・ウラジロガシ・(5種) キハダ・ヤマザクラ・ミスギ・(3種)	カラスザンショウ・アカメガンワ・アオモジ・ヤブニッケイ・シロダモ・キブシ・コンズイ・シラキ・ヤブツバキ・ネズミモチ・サザンカ・イヌガヤ・ヤブムラサキ・ヒサカキ・シキミ・コンテリギ・アオキ・(17種)

(2) プロット 2 (20 年生) 表-2

設定後試験区内に発生した有用樹は補整区、放置区ともに 5 樹種の発生が見られました。

表-2 植生の状況 (伐採後 20 年目)

分 種別	植 生	
	有 用 樹	非 有 用 樹
補整区 (施業区)	ケヤキ・キハダ・ミズキ・イヌシデ・(4種) ヤマザクラ・イヌシデ・トネリコ・シオジ・クマノミズキ (5種)	アオモジ・カラスザンショウ・アカメガンワ・ハイノキ・イヌガヤ・サザンカ・ネズミモチ・ヤブツバキ・ヒサカキ・シキミ・キブシ・シラキ・ヤブムラサキ・コンテリギ・アオキ・(15種)
放置区 (対照区)	ケヤキ・イヌシデ・タブ・アカガシ・ウラジロガシ・(5種) ヤマザクラ・イヌシデ・トネリコ・シオジ・クマノミズキ (5種)	アオモジ・カラスザンショウ・アカメガンワ・ハイノキ・イヌガヤ・サザンカ・ネズミモチ・ヤブツバキ・ヒサカキ・シキミ・キブシ・シラキ・ヤブムラサキ・コンテリギ・アオキ・(17種)

表-2 プロット2

種別	植 生	
	有 用 樹	非 有 用 樹
補整区 (施業区)	ケヤキ・ウリハダカエデ・ミズキ・ヤマシバカエデ・(4種) ヤマザクラ・イヌシデ・トネリコ・シオジ・クマノミズキ・(5種)	アオモジ(枯損)・カラスザンショウ・アカメガシワ・カナクギノキ・シキミ・コンテリギ・イヌガヤ・ヤブムラサキ・カゴノキ・キブシ・ニワトコ・イヌガシ・ハナイカダ・シモツケ・(14種)
放置区 (対照区)	ケヤキ・ミズキ・キハダ・トネリコ・ウリハダカエデ・ヤマシバカエデ・(6種) ヤマグワ・アカシデ・サウグルミ・シオジ・クマノムズキ・(5種)	アオモジ(枯損)・アカメガシワ・カラスザンショウ・ネムノキ・エゴノキ・カナクギノキ・ヌルデ・ゴンスイ・イヌガヤ・シロダモ・シキミ・ニワトコ・ネズミモチ・キブシ・ハナイカダ・コンテリギ・イヌガシ・シモツケ・(18種)

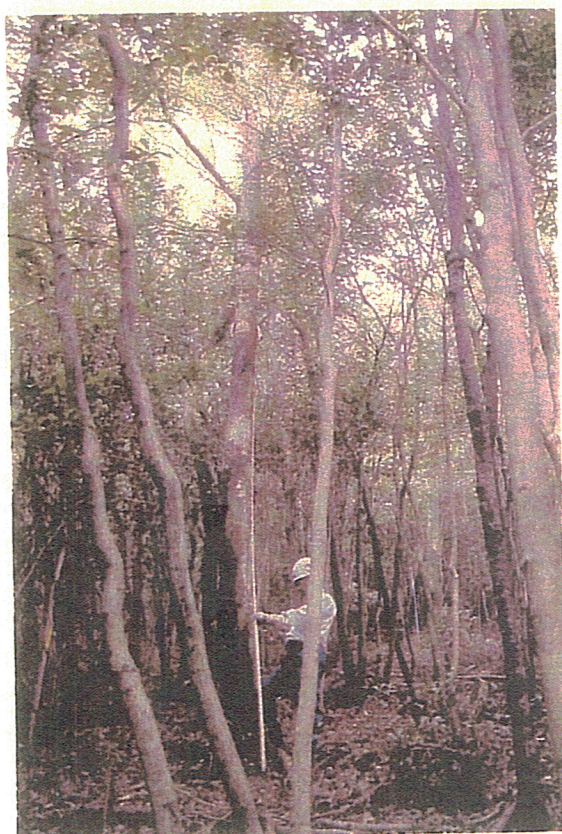
(3) プロット3 (30年生) 表-3

設定後試験区内に発生した有用樹は補整区に4樹種の発生が見られ、放置区には2樹種の減と、新たに1樹種の発生が見られました。

しかし、有用樹の(ミズメ)については胸高直径24cm程度の枯損木が見られました。(写真)

表-3 植生の状況 (伐採後30年目)

区分 種別	植 生	
	有 用 樹	非 有 用 樹
補整区 (施業区)	ミズメ・キハダ・ミズキ・イヌシデ・イロハモミジ・ヤマシバカエデ・ウラジロガシ・(7種) タブ・ヤマザクラ・アラカシ・アカガシ・(4種)	カラスザンショウ・アカメガシワ・エゴノキ・イヌガヤ・ヤブニッケイ・シラキ・ネズミモチ・ヒサカキ・サザンカ・ヤブツバキ・シキミ・ヤブムラサキ・(12種)
放置区 (対照区)	ケヤキ・ミズメ・ミズキ・イヌシデ・アカガシ・タブ・イロハモミジ・ウリハダカエデ・ウラジロガシ・(9種) アラカシ・	アカメガシワ・カラスザンショウ・エゴノキ・ネズミモチ・イヌガヤ・サザンカ・ヤブニッケイ・ヒサカキ・ヤブツバキ・シキミ・イヌガヤ・(11種)



枯損木ミズメの状況

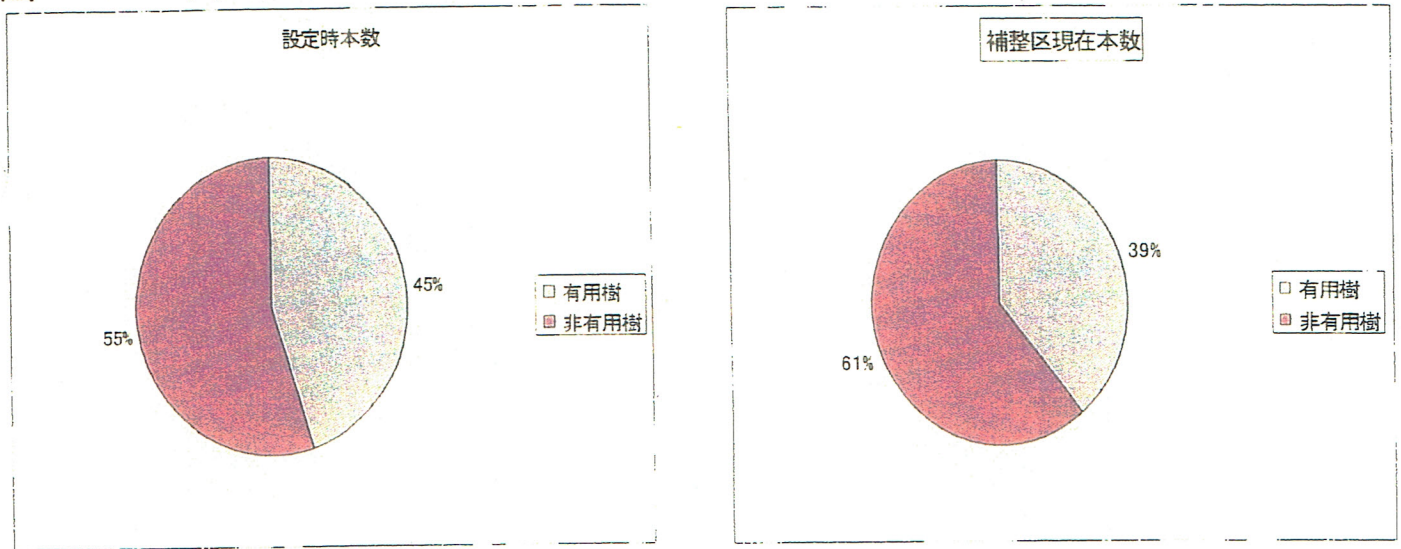
B 占有率

試験区毎に有用樹と非有用樹の占有率の比較を補整区のみについて行いました。

(1) プロット1 (10年生) 図-1

設定時は有用樹45%、非有用樹55%となっております。今回、調査時点では補整区が有用樹39%、非有用樹61%となりました。

図-1 本数占有率 (伐採後10年目)



(2) プロット2 (20年生) 図-2

設定時は有用樹50%、非有用樹50%となっております。今回、調査時点では補整区が有用樹58%、非有用樹42%となりました。

図-2 本数占有率 (伐採後20年目)

